

95名の医学士誕生

第83回 卒業式



第232号

公益社団法人
医学振興
銀杏会

06(6879)3501

(編集同人)

川越裕也 萩原俊男
門田守人 米田正太郎
杉本央正 武田雅俊
木村 武黒木尚長

平成23年度大阪大学卒業式が3月22日前午11時より大阪城ホールにて行われた。平野俊夫総長は挨拶の中で、リーダーシップを持つためには高い目標となる「志」、そのモチベーションとなる「理念」、他人の気持ちを広く受け止めれる「慈」の三つ、そして物事の本質を見極める能力が大切であると説かれた。また創立80年の大阪大学の歴史を振り返られ、適塾の自由闊達な気風と、大阪町民の学問への情熱によって創設されたこの激励の言葉をかけられた。

また、その卒業式にともなう医学部医学科卒業式が同日午後3時より医学部A講堂にて行われ、本年度は95名の新医学士が誕生した。式において、米田悦啓医学部長より一人に学位が授与された。医学部長は挨拶の中で、東日本大震災では危機管理の重要性を学んだことをあげられ、どんなどんな時にも対応できるよう医師にならって欲しいと述べられた。そして、6年前に入学したとき感じていたワクワクする気持ち、新しいことを発見しようとする気持ちを大

開催日 平成24年5月2・6日（土）
開催場所 大阪大学医学部銀杏会館
級会・支部（会）正午～午後1時30分
（3階大会議室）

総会 午後1時30分～4時30分
(三階阪急・三和ホール)

交流会
（2階レストラン「ミネルバ」）

定期総会ご案内

特別講演
演者 大阪大学総長
懇親会 午後4時30分より

（2階レストラントン「ミネルバ」）

特別講演
演者 平野俊夫先生
懇親会 午後4時30分より

（3階阪急・三和ホール）

特別講演
演者 平野俊夫先生
懇親会 午後4時30分より

（3階大会議室）

切にして、これから的人生を進んで欲しいと激励された。福澤正洋病院院長は孟子の「志者は、氣の師なり」という言葉をひかれ、人生の目標を持つことの重要性を述べられた。また、福沢諭吉が作成したときれる心訓「世の中で一番楽しく立派な事は、一生涯を貫く仕事を持つという事」を引用され、一つの仕事をやりきるようとに応援の言葉をかけられた。最後に、岸本忠三医学振興銀杏会理事長より祝福の言葉が述べられ、学友会からのお祝いが卒業生に贈られた。平成23年度「山村賞」は田祥宏君にその栄誉が贈られた。また、平成23年度博士課程優秀者として11名にその栄誉が授与された。

トピック

脳神経系の疾患は、その治療の困難さのために、特に新しい治療法の開発が望まれて

が起きてから2週間以内の患者が対象で、同社は約10人の患者を対象に細胞の注入を1

前から米国カナダなどでも始まつており、昨年に第Ⅰ／Ⅱa相試験を終了し、結果が報告さ

と報道されている。これまで4人に行われた治験で、今のところ重大な副作用は確認さ

脊髄損傷の臨床試験

きだ。米国のバイオベンチャーや、
シェロンは2010年、世界
初のヒト胚性幹細胞（ES細
胞）の臨床試験を開始した。
回だけを行い、安全性を確認す
る計画を立てていた。また脊
髄損傷により破壊された神經
回路の修復を高める効果をも
てている。最近の数年間の臨
床試験の進展は急速で、新たな
治療法への期待は高まっている。

4月1日より福澤正淳前病院長の後任として医学部附属病院長を拝命しました器官制御外科学講座（整形外科）教授の吉川秀樹でございます。学友会の皆様、今後ともよろしくお願い申し上げます。



吉川秀樹

(昭54)

これらの基盤のお陰で、現在の我々が存在することに感謝し、より一層研鑽を積んでいきたいと考えます。

一方、医療安全では、阪大病院は国立大学附属病院会議で医療安全管理体制を担当しており、リスクマネージメント、医療クオリティーマネジメント領域では、今後も全国のリーダーとして一層の機能充実に努めたいと考えます。協力をお願い申し上げます。

員は選考する」とあります。医師が疲弊することなく余裕を持つて診療、研究に取り組めるようになります。阪大医学部及び附属病院の発展のために、全力で努力したいと思いますので、学友会の皆様には、何卒よろしくご支援、ご協力をお願い申し上げます。

効果、実施状況など	フェーズ
軸索再生を促進する薬剤。 米国カナダなど8地域で実施。	Phase I/IIa 終了
脊髄損傷急性期の患者に移植。現在休止中。	Phase I
Proneuron社が実施したが、資金の問題により休止中。	Phase II 休止中
関西医科大学にて実施。	Phase II 終了
軸索再生を促進する薬剤。	Phase I 終了

文部科学省橋渡し研究支援推進プログラム「TR実践のための戦略的高機能拠点整備」

設置し、呼吸器外科、呼吸内科を統合したセンターとして運営することとしました

最後に、病院経営でありますが、3年間の財務担当副病院長としての経験を活かして、

基本計画は1996年6月に閣議決定され、5年を経過した平成23年度末で見直し、必要ならば変更を加えなければならぬことになっている。第1期の5年間の目標達成状況を検討し、その進捗を勘案しながら変更点を追加・変更する作業である。それを行う組織として、基本法に基づきがん対

れていないが、効果がみられたとの結果は得られないという。ワシントン・ポストは「希望を持たせておいて金銭上の理由でやめるとほひどい」という患者団体側の声を紹介している。

証は、実は動物実験においてさえ非常に難しい。脊髄損傷では神経回路が破壊されるところにより、重い神経症状がもたらされ、損傷された神経回路は修復されにくく、炎症に影響する。一連のメカニズムが十分に解明されていないために、治療効果の科学的な評価はしづらび議論を生む。

gical Disorders and Stroke が
行った FORESCI プログラ
ムでは、論文報告された新規
の治療法の脊髄損傷動物モデ
ルにおける効果について追試
を行い、12件中2件でしか現
現性が確認できなかつたと報
告している。また脊髄損傷は
治療の安全性の評価が困難で、
この点についても信頼性の高
い情報を得るのが難しい。脊
髄損傷は複雑な疾病であるた

め、ES細胞による最初の治療剤の開発目標には適していないことを警告する科学者は、ジェロンが臨床試験を開始する前にもいた(Barde, *Nature* 458, 2009)。しかりとした基礎研究の土台の上に築かれた臨床試験が、後退に終わらない真の先進的な医療の実現に繋がるものと考える。

「がん対策推進基本計画」

—今後の課題—

筆者は3月1日の協議会終了時に、会長として委員の皆さんに謝辞を述べた。そこでこれまでには時間に追われ十分に議論を深めることができなかつたが、今後の協議会では本質的なところまで議論を進

それは国民全体のデータの積がされていないため、やを得ず、一部の都道府県のデータをもとに推計したものを利用している。政

いはそそく全1の書もんの患例に、法律を整備し、正しいデータに基づいてがん対策を検討することが基本である。これは一例であるが、我が国ではこの他にもがん研究費の省庁縦割り体制あるいは医療提供体制など本質的な課題を多く抱えている。そのような意味において、表面的なことのみに目を奪われず、本質的な問題を見つめ、その解決を図る必要がある。

画では、かん診療連携拠点病院数などを数値目標が広く使われていたが、協議会では現在の数値目標では医療の質は評価されない点が指摘され、もつと質に重点を置くべきであるとの意見が多く、量から質への転換という観点が強調され

筆者は第1期、第2期を通じて今的基本計画では対策の目標を表面的な問題点に向けており、これだけでは有効ながん対策にはならないと思つており、もつと深い所に横たわる本質的な問題を解決しなければならない。この点がでかいのである。がん登録に関する実施したかん对策の評価について述べた。この臺灣は筆者もどつても正確にはできないのである。正しいデータベース構築のため100%のがん患者の登録を目指すことが必要である。

脊髄損傷に対する臨床試験の一部（米国）

治療法

Rho 阻害剤 (Cethrin)

ヒト ES 細胞由来オリゴデンドロサイト
前駆細胞

培養マクロファージ

骨髄間質細胞

抗 NogoA 抗体

紹
診
療
科
介

高度救命センター

大阪大学医学部附属病院高度救命救急センターは昭和42年に、わが国で初めての重症救急患者の専門施設（特殊救急部）として開設されました。また、昭和55年には国立大学最初の救命医学講座が設けられました。初代の杉本侃教授、2代目の杉本壽教授の後、平成22年6月に私が教授に就任いたしました。当教室は学内の構成員が約30名、同門会には200名以上の会員を擁しており、大阪府下の救命救急センターを中心に、全国の大

学や救命救急センターで指導的役割を果たす人材を輩出しています。当施設の創成期の活動は、NHKテレビ「プロジェクトX」でも紹介されました（平成14年7月）。その歴史を通じて、既成概念にとらわれない病態解明、先駆的な診断・治療技術の開発、救急医療システムの構築をめ

ざす姿勢は変わりません。

高度救命救急センターは、重度外傷、広範囲熱傷、急性中毒、多臓器不全、循環器疾患（心筋梗塞、心不全、大動脈瘤等）、脳疾患（脳卒中、脳梗塞等）、急性腹症（重症肺炎、汎発性腹膜炎等）、感染症（肺炎、敗血症等）や心肺危機などの重篤な急性病態を対象として24時間体制で対応しています。センター内には専用の高速MDヘリカルCT、血管造影装置、検査室、集中治療室（20床）を備える

とともに、診療各科の全面的な協力を得て、すべての領域で常に最高の医療を提供できています。大阪大学医学部附属病院に高度救命救急センターが、平成19年度にはハートセンター（循環器疾患救急）が開設され、内因性の二大救急疾患への対応がより強固なものとなり、高度救命救急センターも連携して地

域医療・広域高次救急医療に受け入れてきました。吹田

貢献しています。

平成20年1月には大阪府から委託を受けてドクターへりの運航を開始しました。大阪

府下全域をカバーして救急患者の対応と搬送を行っており、平成22年度の実績は117件

を活かして災害派遣にも貢献しており、平成23年東日本大震災では震災翌日から救命センタースタッフがドクターへりで被災地域に入り、計20件の患者搬送に従事して広域災害医療を支えました。

研究においては、臨床に立脚したテーマを中心として、脳低温療法の研究、遷延性意識障害を呈する症例の意識回復に関する研究、重症病態の解説とその制御に関する研究、超高速ラセンCTネットワークの構築に関する研究、CT

（R/S）などを用いており、う何卒宜しくお願い申し上げます。

遺伝子レベルでの病態解析や再生医療にも取り組んでいます。次回は泌尿器科学の野々村先生にお願いいたしました。

今後も、学友会の先生方のご指導、ご支援を賜りますよ

嶋津岳士（昭55）





…その133

なぜ、私が遺伝学の仕事を
今でも関わっているのか…。
出来の悪い医学生だった私は、
多くの科目で再試験を繰り返し
でいたが、さすがに再々試験は
になると一科目しかなかつた。
遺伝学である。再々試験は、
口頭試問だったのだが、DN

遺伝学研究のスピード

AとRNAの違いを述べよと言われて、満足に答えられなかつたのが、つい昨日のことのようである。

を絞り研究をしていた。ところが、約10年前にヒトゲノムのDNA配列が粗方わかつてしまった。最近では、次世代シークエンサーといわれる機

高校生が突然登場し、ゲノムシーケンス情報とアルゴリズムを駆使して、複数の遺伝子が関わっているような疾患の原因遺伝子をあつという間で同定してしまうんじやないかと思つてしまふ。

化のように鑄型DNAが修飾されても、新しく導入される塩基はメチル化されていないものと同様になるので、鑄型DNAがメチル化されていたか、あるいはされていなかつたかを区別することはできないことになる。しかし、恐ろしいことに次世代のシーケンサーのある種の機械は、鑄型のDNA配列を直接解読可能ならしい。

遠い昔の記憶は鮮やかに蘇るのに、昨日やった事はきれいで忘れているという」とほ

誰にでもあることである。それでは、遠い昔の記憶はどのようになに腦に保存されているのか？ ひょっとすると、脳の記憶に関する部位の鋳型DNAを直接、次々世代シーケンサーで解読する事で、突破口が開けるのではないかと最近、夢想している。

次回の執筆は、前学友会理事長の松本圭史先生（昭28）にお願いいたしました。

ご期待ください。